

だから丹波篠山のホッケーはおもしろい

～楽しいから強くなる多世代スポーツ～



今回は、ホッケー未経験者だからこそ感じた
魅力や疑問を取材してきました。



リポーター
三和久美花さん

HC HYOGO HEARTS (エイチシーヒョウゴハーツ)

活動日 毎週土曜日9時～12時
活動場所 丹波篠山総合スポーツセンター
問い合わせ 代表 岡花宏明 ☎090-3271-1636
メール: hchyogohearts@yahoo.co.jp

いつでも体験 OK!

「クラブ文化」のスポーツ

スポーツという言葉をもとくと、ラテン語で「余暇を楽しむ」という意味があります。ヨーロッパでは、仕事終わりに、家に帰る前に立ち寄って、仲間とワイワイと楽しむ集いの場としてスポーツクラブがあります。

そこにゲーム性があると、より盛り上がりやすい。ヨーロッパ発祥のホッケーは、そのひとつとして発展してきました。

丹波篠山の多世代スポーツへ

2006年、のびぎく兵庫国体のホッケー会場になったことで、市内にはジュニア・社会人・マスターズと、次々にチームが発足しました。そして、2017年には市内のチームが意気投合。心から楽しむという意味を込めて、「HC HYOGO HEARTS」という多世代クラブに生まれ変わりました。

園児から社会人まで、コーチ陣もスタッフもクラブのメンバーとして所属しています。クラブ内での楽しみ方は、人それぞれOKなところも魅力。128人が参加する大きなコミュニティには、市内外からメンバーが集まっています。

ホッケーのルールや見どころを紹介します

①スピード感のある展開

サッカーよりひとまわり小さい「人工芝コート」で行われます。ボールは、野球ボールくらいのおおきさ、ゴルフボール程度の硬さです。硬いスティックを使ってボールを操るので、とにかくボールスピードが速く、場面展開が早いことが魅力。そのため、審判は2人体制です。

②道具を操るからその技あり!

ボールを扱うスティックは棒状で、先端がくるっと曲がっています。スティックには平らな面と丸い面があり、平らな面でしかボールを扱えないため、面をくるくると回しながら操作します。またスティックの長さは90センチ程度が主流。手が90センチ伸びた感覚でプレーされるため、ボールを操る空間は広く、戦略もパス回しも立体的です!

③ハイライトは多彩なゴールシーン!

ゴールを中心に半円状に書かれたシューティングエリアから放たれたボールしか得点になりません。長いスティック、小さなボールによるゴールシーンは多彩な技があり、例えば、仲間のスティックを壁に見立ててボールを当てシュートを狙う「タッチシュート」などがあります。



①・②わくわくホッケースタジアム! 2021の様子
③丹波篠山総合スポーツセンターでの練習の様子
④東京2020五輪日本代表選手によるホッケークリニック
⑤ハーツの小学男子チームが優勝した西日本選手権大会

「ポトムアップ」で、めげずは成長の自動化へ

「極論を言えば、ホッケーでなくてもOKです。自分が心から楽しめたなら、自分自身の目標設定は、自分の中から生まれ、成長の自動化が起こり始めます」と、HC HYOGO HEARTS代表の岡花宏明さんは話されます。

実際、11月に行われた西日本小学生6人制ホッケー大会では、「HC HYOGO HEARTS」の小学生男子チームがコロナ禍でメンバーが集まっていた練習はなかなかできない期間もありましたが、16年ぶりに優勝することができたそうです。丹波篠山のホッケーは、どんなときも揺るがず「楽しむ」とを大切にしています。

丹波篠山とホッケーは相性がいい

取材をして感じたことは、丹波篠山とクラブ文化の相性です。ホッケーに限らず、丹波篠山には「集い」や「協働」が、風土に根付いているまちだと常々感じています。ホッケーのようなスポーツ(余暇の楽しみ方)は、これからもトップ選手を生み、ますます丹波篠山に彩りを与える存在になると感じました。

■ インタビュー ホッケーを始めたきっかけや、楽しみを聞きました ■

ハーツの前身である篠山ジュニアホッケークラブのチラシを見たことがきっかけで、未知の世界を知りたいと始めました。クラブでの活動は、ホッケー以外にも魚やイノシシを食べたりなど、好奇心が尽きることのない活動だったそうです。その後、世代別日本代表に選ばれるなど活躍され、丹波篠山に帰って来られました。「勝ち負けの結果は残りますが、あくまで結果。楽しい楽しいとやってこそ、結果がでるホッケーであってほしい」とプレーを楽しみながら指導もされています。

ハーツのコーチ&プレーヤー 倉橋歓さん

子どもがホッケーを始めたことや、ホッケーイベントのお手伝いをしていたことがきっかけだった皆さん。しかし、今やホッケーは生活に無くてはならないものに!!何よりもホッケーを心から楽しむために、イベント時には、当たり前のように仮装をされています。「みんな仲間、健康にいい、夢中になれる、とにかくホッケーが大好き」と、ホッケーの髓まで楽しんでいます。

ハーツの成人女性メンバーの皆さん

※12月に開催されたホッケーイベントでは仮装して参加されていました。



兄や母が楽しそうだったから始めた、なんとなく始めたなど、きっかけはいろいろ。取材時のイベントでは、格上の中学生1人に対して5人で立ち向かい、ミニゲームで7-11の惜敗にみんなで悔し涙を流すシーンも。「ホッケー楽しい。だから次こそは頑張って一勝したい」と、気持ちを新たに次の試合では先制点を見事ゲット。観戦していた保護者の父は、ホッケーを始めたおかげで、前向きに社交的な性格になりましたと、優しく強く見守ってられました。

ハーツの小学生低学年メンバーの皆さん

